

Q2 学習支援の充実と奨学金制度の創設について

学習支援・奨学金制度

問 貧困状態にある子供たちに行政としてできる施策を二つ提案したい。

一つ目は、全国的に貧困状態にある児童生徒に対してNPO組織などが宿題を手伝ったりする無料の塾などを開いている。このような学習支援の仕組みを行政が主体となって創設してはどうか。

二つ目は、現在話題となっている奨学金について、奨学金を利用して大学に入ったものの、卒業後その返済に困窮し、自己破産に至るケースが多いこと。また、在学中からアルバイトに明け暮れてしまい、本来の意味での奨学金になっていないことなどから、町独自の奨学金を創設して、高校を含め専門学校・大学進学を目指す町内の子供たちを手助けしてはどうか。以上、貧困状態にある子供の支援策について執行部の考えを伺う。

答 (堀部教育長)

1点目の「学習支援の仕組みをつくってはどうか」について、現在教育委員会が行っている子供に対する支援は三つあります。

一つ目は、要保護・準要保護児童生徒に対する就学援助です。

これは金銭面における「学習支援」で具体的には、経済的な理由により、就学困難な子供に対する学用品、修学旅行費、校外活動費及び給食などを援助するものです。

二つ目は、「どの子にも確かな学力をつける学校づくり」への支援で具体的には、「町研究指定校制度」や「教師としての力量をつけるための研修会の実施」、「きめ細かな指導を行うための学校支援員の配置」などを行っています。

三つ目は、教育委員会主催の「学習会」の実施です。現在、毎月2回、土曜日にファミリーセンターで学習会を行っています。希望する小学生を対象として算数、英語について、教育委員会の職員が中心となり、ALTやボランティアの協力のもと教えています。これは、言うなれば、無料の学習塾にあたると思います。今後、これらの取り組みのさらなる充実を図ってきたいと考えています。

2点目の「奨学金制度を創設してはどうか」について、奨学金制度は、現在、高校生や大学生を対象とした奨学金として、独立行政法人日本学生支援機構の奨学金制度が広く知られ、多くの学生が利用しています。また、岐阜県教育委員会でも独自の奨学金制度を持っており、活用されています。そのほか、企

業や財団法人の奨学金制度も数多くあります。奨学金の多くが貸付型の奨学金であり、給付型の奨学金は少ないのが現状で議員ご指摘の問題点もあると言われています。

町としては、身近に数多くの奨学金制度があること。無利子型の奨学金や給付型の奨学金も存在していること。そして、実際に町内の複数の高校生が給付型の奨学金を受け取っている事実もあることから、現段階では町独自の奨学金制度を創設することは考えておりません。

保護者や子供の中には、奨学金制度を知らない人もいると思われしますので、周知していききたいと考えています。

問 学習支援については、先ほど月2回、土曜日に希望者を募って、算数、英語の学習会を行っているとのことなので、これをもっと拡充していただきたいと思う。

奨学金については、現段階で奨学金制度の創設は難しいかと思われるが、できれば町独自のものをつくっていただきたいと思う。

Q3 検定試験補助制度について

補助制度の創設

問 世界で活躍できる人材を育てる上で、英語学習の習熟

は今後ますます重要視されるものと思われる。各地で行政として英語教育を前面に押し出す自治体が増えている中、八百津町においても、英語教育に今よりも力を入れるべきであり、その一つとして、英語検定試験の受験を教育委員会として推し進めてはどうか。多くの子供が英語検定に挑戦できるよう検定試験料の一部を補助する制度を設けてはどうか。町の考えを伺う。

答 (堀部教育長)

グローバル化が急速に進む中、国際共通語である英語力の向上は、将来にとって極めて重要な課題であり、様々な分野で活躍できる人材を育成するため、英語教育に力を入れていく必要があると考えています。現在、本町の英語教育で、行っていることとしては、①町教育研究会に「小学校外国語活動担当部会」を設置し、子供たちが興味を持って、意欲的に学ぶことができる授業のあり方を追求しています。②英語の免許状を所有する教員・支援員を配置し、教職員の専門性を生かした授業のあり方について、校内で学ぶことができるようにしています。

③小学校では、英語に親しむ活動や環境づくりを行い、中学校では、コミュニケーション能力の基礎を養うための授業改善を行っています。

英語検定試験は、小学生から社会人まで幅広い年齢層を対象に、英語の力を育てる7つの級があり、学習のレベルに応じて、成果を試すことができます。教育委員会としても、英語検定試験の受験を薦めていきたいと考えています。英語検定の試験料の補助については、財政事情等もあり、今直ぐというわけにはいきませんが、今後考えていきたいと思っています。

山田 勉議員

Q1 観光行政について

問 観光客への対応は？

杉原千畝氏の世界遺産登録の問題で、マスコミに毎々取り上げられる関係で、観光客が大幅に増加していると聞いているが、当町には大型の物産館もなく、大型バス駐車場の案内板もない。街の中への観光客の誘導等いろいろな問題に対処しなくてはいけないが、これからの観光にどのように対処していくのか伺う。

答 (藤本産業課長)

現在、町観光協会のホームページを目的別、地域別、コース別に検索ができるようにしております。また、八百津から杉原千畝記念館行きの休日バス路線が